

令和4年度第6回 鹿島区地域協議会 会議録

<地域協議会の日時・場所>

1日 時：令和4年10月4日（火）
午後1時30分～午後3時20分

2場 所：鹿島区役所 2階大会議室

【 会 議 録 】

1 開 会

○事務局

地域協議会成立要件の確認

委員数14名

【出席委員数】 12名

草野繁春、草野禎夫、高野邦弘、引地友子、太田真樹子、服部隆男、
渡部実、渡部建一、今野秀幸、長澤初男、菅野由美子、佐藤清樹

【欠席委員数】 2名

平仁一、愛宕留美子

上記のとおり、委員の過半数の出席のため成立していることを確認します。

2 会長あいさつ

草野会長よりあいさつ

3 区役所長あいさつ

4 会議録署名人の指名

草野会長が会議録署名人に長澤初男委員と菅野由美子委員を指名。

5 議事

(1) 報告事項

①（仮称）南相馬市第三次総合計画基本構想（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について

○草野会長 （1）報告事項に入ります。①（仮称）南相馬市第三次総合計画基本構想（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について、担当より説明をお願いします。

《 企画課 資料1により説明 》

○草野会長 それではこの件に関しまして、皆さんのほうからご質問等がありましたら举手の上、発言をお願いしたいと思います。はい、それでは菅野委員、お願いします。

○菅野委員 とてもまとまっている資料で、よく読ませていただいたんですけど、アンケートとかもとられていて、中高生の声とか、いろいろと理解することができました。大きく、市民の視点というふうな段が設けられてるんですけど、今なかなか人口が減少している中で、子供が大きくなってこの地に残るといふまではかなり年数がかかると思うんですけど、そんな中でやっぱり外国人労働者の存在はとても大きいと思うんです。所々でそういう人たちの存在を目にはしますけれども、そういった方たちの視点というか意見は反映されているのかということと、あとは企業で働いているのでその企業の主の方が、いろんな面でサポートをされるんでしょうけれども、市としてそういう方たちの現状というのかな、どういうところで、把握しているのでしょうか。そういう人たちを見る窓口っていうのかしら、いろんな施設ができましたとか、外国人の方たちの日本語の教育をこんなふうにしてますなんていうのは広報でちらっと見るんですけど、もっと全体的に、市役所でそういう人たちが相談とかをする、そういった窓口があるのであれば、ちょっと知りたいなと思いました。

○草野会長 原町区の駅前にはSAKURAなんかがありますけどね。そういうことも含めてのことだと思うんですけど、説明をお願いします。

○企画課企画係長 今回計画を策定するに当たって、外国人の方が今600から700名ぐらい南相馬においでなってるんですけども、そういった方の意見を直接お伺いしたかという、直接お伺いするような機会は、すみません、持ってございませんでした。ただ一方で、資料1の2、11ページの政策の柱4の「産業・しごとづくり・移住定住」の中にも入れさせていただいておりましたが、今回やはり産業・しごとづくり、あらゆる世代や国籍などを超えて就業機会の創出をということで、今まさに菅野委員さんおっしゃったとおり、若い世代の働き手がない中で、この外国人の力を借りるということも市として大変重要だろうと思っておりますし、課題だと思っております。そういったことで、言葉にするとさらっとしてるんですが、外国人の労働の部分でのかわりということも大変重要だと思っておりますし、草野会長からありましたが、JR原ノ町駅のところに、国際交流の拠点と外国人労働者の拠点というのを統合いたしましてSAKURAという施設を今年度から設けてございます。こちらについては、専属の職員を市から外部委託するような形で団体をお願いしまして、言葉の問題や生活問

題、就職支援も含めて、市として取り組んでいるところでございます。今後そういった窓口は勿論ですが、この労働者の関係も充実させていかなければならないだろうと思います。今回さらにSDGsの視点も含め、世界、社会がグローバル化していることからすれば、多様性の問題ですね、外国人の方も含め、多様な視点を持って、仕事だけではなく、まちづくりにかかわる中で共生するような社会というのも当然大事なんだと思っています。そういったことで仕事の面、さらに仕事以外の面も含めて、広く外国人の方とお付き合いしていくのが、今後に求められているのかなと捉えております。具体的にその窓口と言ったときには、経済部の中に商工労政課というところがございまして、そちらが今SAKURAの窓口になっていて、まずは仕事の面からサポートする体制で市役所では進んでいるところでございます。以上でございます。

○草野会長 菅野委員、よろしいでしょうか。

○菅野委員 はい、ありがとうございます。やはり外国人労働者の方たちを大切に育ててほしいと思うんです。全然知らない国から、こういった小さい市にやる気を持ってきて来てくださったと思うのに、今いろいろなニュースとかありますけれど、やっぱりそういう人たちの人権っていうのが、守られないといいますか、言葉が分からないとかそういったことや、日本よりも貧しい国から来ていらっしゃるという方たちも多いので、割と軽く見られちゃうといいますか、日本人は見てしまうという傾向があるのかと思うんです。ただ、基本姿勢に「つなぐ・よりそう・いどむ」とありましたけれど、そういう人たちが南相馬市に来て働いて、働きやすいとか、こういうところに長く住んでみたいと思うように力を注いであげていただければなと思って質問させていただきました。長くなりますけど、そういう人たちへの教育とか、子育て・健康・医療・福祉みんな当てはまると思うんですよ。産業とか仕事づくり、移住定住ばかりじゃなくて、本当に100年のまちづくりというふう考えているのであれば、そういう人たちの家庭とか子供たちの支援、そういうこともやっぱり長い目で必要になると思います。例えばそういう人たちの子供が学校に入ったときにサポートできる状況にあるのかとか、あとは市役所に行ったときに外国人の職員の人がいるのかとか、言葉でちゃんと対応できるのかとか、そういったいろいろな問題が山積みだと思うんです。そういう、多様性といいますか、この小さい南相馬市でもいろいろな人たちが入って生活しているわけですので、そういう人たちも市民として目をかけてあげべきだと思いますし、そういう人たちの存在をこういう資料に反映していただきたいと思っています。以上です。

○草野会長 ありがとうございます。今、菅野委員が話されたことはやはり持続可能な社会ということで、SDGsそれにもつながるような発言だと思いますので、その辺はしっかり取り組んでいただきたいと思っています。他にご質問ございますか。では、今野委員。

○今野委員 はい、今の説明もこの資料も本当によくできてるなと思ひまして、この付属資料の8ページと9ページ、この辺がちよっと私個人に重なる部分もありますし、あとは周りを見ても私たち世代、団塊の世代、第2次ベビーブーム世代などにも重なるのかなという部分があるんです。それは何かというと、南相馬市に住み続けたいという今後の定住意向と、市外で暮らしたい理由、そういったところなんです。私たちの

世代というのは第2次ベビーブームで非常に子供が多かった時代ですが、振り返ってみますと、私たちの同級生や先輩も含めて、南相馬市残ってる人は非常に少ないと感じます。中高生へのアンケートで、高校卒業後の進路希望という項目で6割、過半数以上が進学を希望しております。進学して卒業した後に、地元に戻ってくるのかという部分です。地元に戻ってきて、就職先を探しても無いんですよ。そういった理由で戻ってこないという方が結構多い。あるいは南相馬市内にある企業よりも、待遇面とかそういった部分で、条件の良い会社が県外のほうが多いと。いろいろな理由があると思うんですけども、南相馬市は条件が悪いという感想を持っている人がほとんどだと思うんです。最近、進路とか就職支援、あるいは担い手支援という部分で、医療・福祉分野で大学の支援金制度があるわけですよ。南相馬市に戻ってきて3年あるいは5年以上勤務を続ければ、貸付金が免除されるといったような仕組みがあります。これは、働き手不足はどこも一緒だと思う。どんな産業も一緒だと思うんですよ。医療現場や福祉現場もそうですけれども、第一次産業、農業・漁業・林業、これも担い手不足です。そういう担い手不足が1番深刻な部分で、もっとほかにもあると思うんです。そういった部分にもその支援の輪をもっと広げるべきだと私は考えます。その点に関して、市ではどのように、この計画に反映させていくのかっていうことをお伺いしたいです。

○草野会長 それでは説明を求めます。

○企画課企画係長 今野委員からあった担い手の問題で、ご丁寧に説明いただいたとおり、これまでは介護や福祉の分野について、ある一定程度の期間を就労いただくと、修学資金等の免除という形でやらせていただいております。先般、その分野以外についても、市内の事業者に就職いただいたときに、貸し付けの部分を免除や猶予できるという仕組みを商工労政課のほうでやらせていただいておりますので、そういった面では、幅広い分野で就労の支援をしていくという施策をやらせていただいております。今後、具体的な基本計画を年末にかけて作っていくわけですが、今回お示したものの基本的なまちづくりの大きな方向性の中で、今課題になっている、今野委員がおっしゃった具体的な施策さまざまやらせていただいておりますので、そういった部分についてもご意見いただきながら、取りまとめさせていただきますので、引き続きご意見いただければ、できる限り対応していきたいと思っています。

○草野会長 はい、今野委員。

○今野委員 私が今の部分で一番申し上げたいのは、今の中・高生中心に、若い世代をできるだけ南相馬市に残るような方向でいろいろ検討していくのが必要かなと。市外で暮らしたい理由なんてせっかくこうやいうアンケートをとって調べてるわけですから、こういう部分、問題点をどんどんつぶしていったほうが、私は他の県外なり他の町には行きたくないよと、そういった動機にもつながるのかなと考えますので、ぜひよろしくお願いします。以上です。

○草野会長 本当に市にとっても差し迫った非常に大きな問題だと思います。実際現状だと、そういう流れは続いていると思います。残りたいんだけど残れないという大きい要因がありますから、その辺を踏まえていかにしたらいいのかっていうことですよ。大きな問題だと思います。その他にご質問ございますか。はい、では菅野委員お

願います。

○菅野委員 すみません、この案件に直接関係はないんですけど、パブリックコメントの閲覧、市民が見たいときは今どんなふうになってますでしょうか。

○企画課企画係長 パブリックコメントの手続きにつきましては、各区役所、生涯学習センター、あとは図書館に、今お示したこの冊子を紙で閲覧用に配らせていただいているのと、あとは市のホームページでも閲覧できるようにさせていただいております。

○菅野委員 すみません、前に役所を訪問して、ホームページだったか何か、パブリックコメントを閲覧したいんですけどと言ったら、ちょっと簡単じゃなかったんですよ。この前の広報で、ベビーファースト運動活動宣言セレモニーの記事にQRコードが付いていて、スマホで読み取ると取り組みの情報を瞬時に見られるので、そういうふうにパブリックコメントもQRコードで簡単に見れるような、そういう手続きができないかなと思って、今日提案させていただきますので、検討していただければと思います。

○草野会長 はい、いま菅野委員から質問がありました。この件に関して担当から説明をお願いいたします。

○企画課企画係長 手前ども企画課というところで、計画自体は我々なんですけど、そのパブリックコメント手続きについては、秘書課でやっています、広く広報広聴の視点だと思うので、そういうQRコードなどを示してすぐに速やかにアクセスできるのはいかがでしょうかという話を、市役所に戻ったらしたいと思います。あとはタイミングですね、例えば広報とかでQRコードを載せたいと思ったときに、そのQRコードと先に入れるページの方とのリンクの関係もあってどうしても広報の締め切りが早いなんていうこともあったりするので、その時間の軸がずれても作れば、いま菅野委員がおっしゃったのなんていうのはまさに今、市のいろんな取り組みでもQRコード入れてやっていますんで、相談させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○草野会長 はい。それではほかに、ご質問ございますか。

○草野会長 この素案ですけど、南相馬市で言えばこれは本当に根っこの部分だと思うんですよ。ですから私はこの地域協議会、鹿島区の委員として思うんですけど、ある意味では3本の幹があるわけですから、その幹の状況がそれぞれ違うんですよ。小高区と原町区と鹿島区の、それぞれの特徴が違いますので、それを今後どのように具体的にやっていくかっていうのが重要なと思っています。あとは先ほどのお話しに似てるかもしれませんが、子育てにしても、今、結婚願望が非常に少なくなっているとか、結婚はいいやみたいな、そういう風潮も非常に多くなっているみたいなんです。ですから、根っこに大きな抱えている物があって、まずそちらを最初に解決しないと、いくらこの理想的な文面でもね、本当にそれが解決につながるのかなと、ちょっと私としては疑問なんです。その辺も踏まえて、あとは少子高齢化ですから、人生100年時代と言われてますし、60歳65歳でも元気な人がいっぱいいるんですよ。その方が活躍できる場というのは本当に重要だと思ったんですよ。ですから、若者を移住させる、若者を大切にするというのは非常に大事ですけど、ある意味では

元気な高齢者が生き生きと何かしらできるというか、そういう仕組みづくりも実は地域にとっても重要じゃないかなと思っています。その辺も含めて、それぞれの具体的なものを今後、示していただければと思います。

○草野会長 ほかに質問ございますか。それではですね、発言がないようですので、本案件に関してましては、以上といたします。

(2) その他

①南相馬市プロジェクト研究員との意見交換について

○草野会長 (2) その他、①南相馬市プロジェクト研究員との意見交換について、担当に説明を求めます。

《 鹿島区地域振興課 資料により説明 》

②鹿島区地域協議会視察研修について

○草野会長 ②鹿島区地域協議会視察研修について、事務局に説明を求めます。

11月の地域協議会を11月29日(火)に開催することとし、その際にリサイクルプラザ及びスキット千倉において視察研修を行うこととした。

③地域協議会だよりの発行について

○草野会長 ③地域協議会だよりの発行について、事務局に説明を求めます。

協議の結果、広報委員は固定ではなく、持ち回りで務めることとした。任期2年間の間に4回の発行を予定しているため、会長及び副会長は2回、その他の委員は名簿順に3名ずつ広報委員を担当することを事務局案として提案し、了承を得た。

地域協議会だより第18号の広報委員は草野繁春会長、高野邦弘委員、引地友子委員、太田真樹子委員が担当することとなった。

④次回開催日程について

10月25日火曜日、午後1時30分よりかしま交流センター2階大ホールで実施することについて説明を行い、了承を得た。

⑤その他

特になし

○草野会長 ほかにございませんか。なければ、これを持ちまして本日の議題はすべて終了いたしました。ご苦労さまでした。

○地域振興課課長 それでは以上を持ちまして、令和4年度第6回鹿島区地域協議会を終了いたします。お疲れさまでございました。

以上のとおり相違ありません。

会 長 草野 繁 春

会議録署名人 長澤 初 男

会議録署名人 菅野 由美子